2014（平成26）年7月発行

都歴研

友の会だより　8号

都歴研友の会事務局　〒191-0033　東京都日野市百草971－158　増田方
電話・FAX　042-591-1853 ホームページ http://sky.geocities.jp/torekikentomonokai

友の会企画研修旅行

日光

～紅葉に燃える修験の道を訪ねて～

小　澤　拓　美

2013（平成25）年の都歴研友の会国内研修旅行は日光に行きました。この直前に27・28・29号と激しい台風が続いて心配しました。しかし10月28日（月）の日光では、青い空をバックに赤薙山・女峰山・男体山が並び立つ素晴らしい天気が、私達15名の参加者を迎えてくれました。

中禅寺

修験の世界へ

15名乗りのレンタカーに乗りこみ、まずは様々な歴史を秘めている門前町へ。洪水の悲話の残る稲荷神社を車窓見学後、河畔に車を停めました。「まず日光の自然的位置関係を見る」ということで、旅を始める地点として、ここを選びました。大谷（だいや）川・稲荷川の合流を確認し、美しく歴史的にも重要な外山（とやま）を眺めました。

鉢石町名ゆかりの石を見てから、高野（こうの）家を訪れ3代前のご当主が建てた芭蕉句碑を拝みます。金谷ホテルに車を止め不思議な3階建て本館を眺め、いよいよ修験の世界へ入ります。ホテル敷地に「星の宿」の護摩壇があるのは、この地の文化の奥深さと思います。

主な紙面

友の会研修旅行　日光～修験の道　1／日光を見ずして結構と言うなかれ　6
都歴研史跡見学　古代から現代までの埼玉県中部の史跡を巡る　8
研究大会 報 告　全歴研・神奈川大会／博学連携フォーラムに参加して　11
都歴研講演要旨　比較史の復活へ　小田中直樹氏（東北大学教授）　13
中央アジアから見た世界史　小松久男氏（東外大教授）　14
会員の著書紹介　むうさん著『うたるればさすり血出ればぬぐい』　17
宮崎正勝著『北からの世界史』／多田統一著『インタビューする心』　18
【投　稿】　会津若松への旅　18　／“幻の大島憲法”を発掘　19
友の会総会報告／新企画「歴史教育研究助成制度」の創設／スペインの旅　22

星の宿の護摩壇

ここは日光修験冬峯（ふゆのみね）のフィニッシュ地点です。日光修験では、「三峯五禅頂」といい春の花供峯（はなくのみね）・夏峯・秋の五禅頂（ごぜんちょう）・冬峯という修行コースがそれぞれ決まっていました。修験とは、日本の原始自然信仰に、仏教（特に真言・天台系密教）の理論的裏付けを加え、さらに中国の神仙思想（道教）も加味された行動的信仰です。山岳をめぐって、瀧に打たれ、岩に寝て、自らの験力（げんりょく）を高め、里の人々の助けになろうと志します。メンタルとフィジカル両様のトレーニングが求められます。蓮華にまします仏達と異なり常に石の上に修行している不動明王はその理想の姿です。

勝道上人の開いた祀りの場

さて、昼食は、多くの方は落合良美さんの「油源」でとりました。もと東照宮御用達の菓子商。昼食後、神橋を渡って、その真向かいの深沙王祠へ。星に導かれてこの地を開いたとされる勝道上人の伝説が今に生きています。

ちなみに、日光の地名のいわれは、観音の浄土補陀落（ふだらく）山→二荒（ふたら）山→当て字して日光山とガイドブック類に書いてあるがこれは俗説と思います。もしそうなら、仏教が日本にそして東国に伝播する以前は、北関東のどこからでも見えるこの山々には名前がない、ということになってしまう。仏教以前に「ふたら・ふたあら」の名はあった、という方が自然です。「日光」は、当て字でもよいが、むしろ日光地蔵・日光菩薩から来るのではないか、と私は思っています。

さて、勝道の最初に開いた祀りの場、本宮と四本龍寺にのぼる。笈掛石・紫雲出石に触り、護摩壇・不動明王を拝みます。私の好きな禅智院を過ぎて、輪王寺前に。旧本坊庭園である逍遥園の紅葉は今一つでした。この資料館は、国宝山積みの大変な宝庫です。大きな謎を秘めている三仏堂は工事中。新造の護摩堂には、中禅寺湖畔の廃寺、日輪寺から移した五大明王がいます。

東照宮の「御神体」

中世に繁栄した光明院の唯一名残の光明稲荷をちらと拝み、ようやく東照宮へ。千人枡形、石鳥居から、五重塔の東側正面の寅・卯・辰を眺め、心柱を覗きました。二社一寺百年戦争の新たな局面で共通拝観券がこの夏になくなり、東照宮だけの拝観料 1300 円を払い、階段を上がって表門（旧仁王門）をくぐり、三神庫、西浄、旧番所、水屋、「旧」経蔵、足元の栗石等を眺める。この辺で「日光城」としての堅固さがだんだん分かってきますが、戊辰戦争のころは大砲だから守りきれるものではありません。板垣退助らの新政府軍に無血開城して、文化財保護の上では良かったです。

さらにもう一段上に。この段は狭いけれど面白い。鐘楼に鼓楼、オランダ灯籠、イルカの燭台、朝鮮鐘（明末清初の李氏朝鮮の危機感がよくわかる）、石造彫

オランダ灯籠

男体山

刻の「飛越しの獅子」が皆さんの好評を博していました。鳴き龍はパスして、もうひとつ上の段に。修復中の陽明門をくぐって、神輿舎、西回廊、唐門、神楽殿など。一本灯籠は、後水尾天皇か東福門院和子からの寄贈（説明看板は和子）。

和子は、雁金屋の尾形光琳の上得意です。東回廊から華麗な御供廊下を少し覗き、拝殿から石の間に。昔はここに下ろしてくれなかった。初めて下りた時は、近世工芸の最高峰を眼前に見て感動した。無名の工芸職人たちに感謝をささげたい。目の前の扉の向こうには、東照宮の「ご神体」がある。それは何か。

東照宮は家康の遺体そのものを祀ったわけではない。明治天皇の桃山御陵、昭和天皇の武蔵野陵、そしてレーニンや毛沢東の廟とは違います。では日光のご神体は何か？それは最高の神職にとっても、ヒ・ミ・ツだそうです。板垣退助に攻められて山越えした「ご神体」は、会津落城の時はその三の丸にあったので、明治時代東照宮宮司にもなった松平容保は見たかもしれません。

健脚組は家康のお墓、奥社に登ります。眠り猫はさておき、その先の坂下門は七宝を用いるなど工芸的に一見の価値がある。やはり李氏朝鮮からのプレゼントに荘厳された墓は、東照宮の聖なるラインから外れている、ことは重要だと思います。

戒律を重視する興雲律院へ

東照宮を出て、阿房石と御仮殿を見たあと、旧大楽院へ。旧社務所でもあり、現在は東照宮美術館。元禄 2（1689）年４月１日、参拝を依頼に来た芭蕉が散々待たされたところです。そこから車移動で、養源院あとに。芭蕉が参拝のつてを求めたお寺。家康より55 歳年下にして最後の側室となった女性の塔が苔むして立つ。薄暗くなってきた中、興雲律院にも寄る。比叡山の安楽院、上野の浄名院、そしてここが律院派の三大寺院です。天台宗でも、特に戒律を重視する分派。

すっかり日がくれる中、ペンション（ハンプティ・ダンプティ）に向かいました。夕食には、茶碗にかぶったパンのような楽しい料理。美味でした。ご主人の特別サービスで、ディスクオルゴールを２台も聞かせていただいた。150 年ほど昔の、１台 200 万円とかのすごい物。

眼前にひろがる中禅寺湖と男体山

10 月 29 日（火）朝 6 時 30 分から前の道でラジオ体操。朝食後、第二いろは坂経由で、中禅寺湖畔へ。歌ケ浜の護摩壇を見学して、中禅寺本堂へ。男体山の神格化（仏格化）の、勝道上人手彫り（伝）の千手観音は、研究者によれば平安末期作らしい。ここの四天王配置は面白いが、明治３５年の山津波でここに移転する前は、当然別の配置と思われる。

さて、予定にいれてなかった半月峠のドライブを、この天気ならと決行。眼

興雲律院

前にひろがる中禅寺湖と男体山、日光白根山に大いに心動かされる。そこを下って、中宮祠へ。男体山登拝千回を超える方たちの記録を見て、登拝門から入口の石段だけを覗く。公務員ランナー川内優輝君も、この夏ここでトレーニングしました。宝物館では、国宝、重文の長大な刀や、職人のサインの残る室町期の青銅三神輿を見ます。戦場ヶ原にのぼり、晩秋の原を一望する。ここの戦いは、男体山と赤城山という神々の戦いだからのどかな感じです。

芭蕉句碑

「しばらくは
瀧にこもるや
夏の初」

裏見の滝から降りてきて、思い立って、芭蕉の句碑「しばらくは瀧にこもるや夏の初」を訪れる。そして、これまたふいと思い立って、清滝に寄る。ここも修験の重要な行場だが、この日は今までになく見ごたえがあった。名前どおり清楚な行場である。ぐんぐん下り、その後稲荷川沿いにのぼり、滝尾に。白糸の滝を拝み、石段をあがる。運だめしの鳥居は、私達は誰も成功しなかった。またご参拝ください、ということだろう。女体中宮の門を過ぎ、三本杉などここは女峰山を祀る仕掛けがいっぱい。石畳を歩き、行者堂へ登る。現在でも女峰山登山口だが、峯入りの重要な通過ポイントである。最も厳しい夏峯の下山ルートはここ。生きて帰りつ

ようやく三本松の茶屋で昼食に。龍頭の滝を少し見ていただいて、陽に映える紅葉のトンネル・湖畔の道を通って、第一いろは坂から下におりました。駐車場から、ひと登りしてたどり着く裏見の滝は、台風後のため、かつてみたことのない素晴らしい迫力。アクセス路まで水しぶきがかかってくるのは初めてで、修行の雰囲気が味わえた。芭蕉が歩いた滝裏の道もかろうじて見てとれる。

裏見の瀧にて

いた、と多くの行者が安堵をおぼえたところです。

さて、一路今日の宿へ。30 分ほども走って、東照温泉旅籠福田屋に到着。部屋に入っていただき、天然温泉の露天風呂へ。夕食は宴会。下北半島出身の女将からの熱心な説明もあり、「いがずし」など素晴らしい味でした。

大猷院－慈眼堂－恒霊山頂

10 月 30 日（水）朝 6 時半、玄関前にてラジオ体操。宿を出発後、まずは、二荒山神社へ。男体山を祀るお社としては、本宮を洪水で追われ、2 度目を東照宮に追われて、3 度目の安息の場所です。中世の（お化け）銅燈籠や、秀忠のときの東照社初代建築の残りである神輿舎を見学、二荒の泉をいただきました。二荒山神社は、伊勢神宮に次いで日本で二番目に広い社域を所有しています。男体山・女峰山も境内です。

そして金と黒を基調とした大猷院＝三代将軍家光の霊廟へ。ここでも、家光の墓が正面奥にあるわけでなく、そこにあるのは位牌だけ。これは一種の両墓制か。

そういう意味では「東照宮は家康の墓である」という一般的理解も全く間違いとは言えない。

家光が葬られているのは、皇嘉門を入って、大猷院の拝殿を 90 度横から見るところ。その正面を延長すれば天海の慈眼堂に至り、一方大猷院のセンターラインつまり家光の位牌の向いている方向は、家康の廟所のある恒霊（例）山頂である。大猷院にあるのは皇嘉門、東照宮にあるのは陽明門、それがなぜかは読んだ本のどれにも出ていない。

大猷院をでて、極めて重要ながら観光客の多くが素通りする二つ堂に。全国に残っているのは、比叡山とここだけ。かつては平泉にも上野にもあった。常行堂は何と無料で入れる。孔雀に乗った宝冠阿弥陀の群像もなまめかしいが、何といっても東北の隅（近世の東照宮建造に伴う移築で、現在は南東の隅）に鎮座する摩多羅神がいよいよ神秘的。源頼朝として祀られるが、歴史ははるかに古い。円仁入唐の時に由来し、天台宗玄旨帰命壇（げんしきみょうだん）の僧たちに尊重されたとのこと。東照宮の三神輿のひとつは、本来はこれでした。

彰義隊－列藩同盟－日清戦争

北白川宮像

その後、関ヶ原の時の家康甲冑等を有する東照宮宝物館へ。この甲冑は、征夷大将軍の宣下文書などと一緒に奥社の銅庫に保管してあったもの。まずは、屋外の旧奥社鳥居・石門（国重文）を見る。落葉の積み重なる道を、車で慈眼堂にあがる。かつては、拝観券を売っていたが、参拝路が危険とのことで売らなくなってしまった。天海は、こちらに葬られています。彼は奇僧のように言われることもあるが、文化的功績を忘れてはならない。国宝を含め多くの稀覯書を保管していた経蔵などを見学した。天海を継いだ晃海のささやかな墓も拝む。そして、最後の輪王寺宮にして、上野彰義隊の盟主、奥羽越列藩同盟に立てられ、後に台湾で戦病死した北白川宮の銅像と、廟を拝観する。廟所は、日光、上野、京都にあり、ホントのお墓は豊島岡の皇室墓地にある。これは四墓制といった感じ。

昼食は「ゆばむすび」にしました。蓮華石を見ていただいて、最後の訪問地、カンマン（憾満・含満）が淵へ。芭蕉にとっても日光最後の訪問地でした。天海の弟子の晃海（もともとは公海）が造らせた、激流に面する岩に刻んだ真言の終わりの言葉「カンマン」の文字。そのこちら側には、ここにも護摩壇がある。その傍らで、研修旅行解散会を行いました。

思い返せば、わずか 2 泊 3 日での盛りだくさんなメニューによくお付き合いくださった、と感心します。参加者の皆様に重ねてお礼を申し上げて、旅行報告といたします。

日光研修旅行記

日光を見ずして結構と言うなかれ

豊　田　岩　男

「日光を見ずして結構と言うなかれ」ということわざがあります。東照宮（特に陽明門等）をすでに見た人が、今回の旅行を「けっこう」と言って取りやめた人がいたとしたら、それはけっこうなことではなかったということが、参加して分かりました。

今回の企画は、小沢さんによる、２０１３年１０月２８日（月）、２９日（火）、３０日（水）の二泊三日の旅であり、１５名が参加しました。今（2014, 4/20）、私が思い出せることは、まず初日に、横須賀線が事故で３０分ほど遅れてしまい、現地集合の時刻に絶対間に合わないと思い、あせって小沢さんに電話をしたことです。しかし、途中の経過理由は忘れましたが、予約した東武特急になんとか間に合い、遅刻しなくてもすみました。この列車で、村木ご夫妻にお会いし、ほっとしたことを覚えています。

今回も一昨年の東北の旅行のときと同様に、案内役の小沢さんにまさに船頭役もお願いし、小型バスの運転もしていただきました。

第１日（2013. 10/28）。まずは、バスを止めて眺めたのは、大谷川と稲荷川との合流点の向こうに見える外山でした。次に「鉢石町」由来の石を見ました。金谷ホテルは、遠い昔の学生時代に立ち寄ったことがあり、ここで鱒の煮たのを食べたことを今でも覚えています。このホテルの敷地内に「護摩壇」があることなど全く知らなくて、小沢さんの案内で、初めて知りました。その後、笈掛石、紫雲出石等を眺め、日光が岩石信仰のメッカであることを知りました。メッカと言えば、イスラム教の聖地であり、その中心部には一辺が１５メートル程の方形のカーバ神殿があり、南東面の隅の下方に黒石（くろいし）がはめ込まれています。イスラム教徒は、イスラム歴の１２月に聖地巡礼を行い、この黒石に接吻をしたり触ったりしてカーバを七周します。イスラム教もアニミズム的な岩石信仰の要素を持っています。今回も、東照宮を訪れ、この東照宮の御神体は、家康ではなく、秘密になっていることも始めて知りました。この東照宮の陽明門を始め唐門に見られる、ところ狭しと施されている彫刻作品群は、ヒンドゥー教の寺院建築の表面を埋め尽くしている彫刻群を

運だめしの鳥居

オルゴールのあるペンション

思い出させます。ヒンドゥー教寺院の彫刻家達は、「隙間の恐怖」を感じていたのではないかと、学生時代に東洋史の先生から聞いた記憶があります。インドに行ったことがない私は、１２～３年前、全歴研の海外研修旅行でヴェトナム行った際に、チャンパ王国のヒンドゥー教遺跡ミーソン聖域に入り、ヒンドゥー教寺院建築の内部にも入ることが出来ました。ヴェトナム戦争時の爆撃で痛みが激しかったですが、内部はかなり広い空間があり、建設に高度な技術と芸術的センスが必要であることが分かりました。

東照宮見学後、阿房石を見たりして何ヶ所か見学した後、第１日目の宿（ハンプティ・ダンプティ）に入りました。このペンションには、素晴らしいオルゴールが揃っており、レコードが登場する以前、人間が演奏する以外には、このようにして音楽を楽しんでいたことを実感しました。

第２日（2013.10/29）。朝のラジオ体操は良かったです。日々の生活の中でも、このような体操から始めれば、人生が変わったものになるに違いありません。この日は、半月峠から中禅寺湖と男体山の絶景を眺め、中宮祠へ下り、男体山登拝門から修験が行われる登山道の入り口付近を確認しました。次に、戦場ヶ原に登り、紅葉にはやや遅すぎた枯れ野を眺めました。雲がかかった男体山を見ることが出来ました。

龍頭の滝を見て、第一いろは坂を下り、駐車場から山道をかなり登ったところにある裏見の滝を見に行きました。最近は、観光地のどこへ行ってもカメラマンの多いことに驚きますが、細い登山道横に三脚を並べて滝にレンズを向けている多くの人たちがいました。

下る途中、小沢さんの思いつきで、修験場の一つ清滝に寄りました。しばらく下った後、女峰山登山口である行者堂へ登る途中の運試しの鳥居では、私も小石を探して試してみたが、残念ながら成功はしませんでした。

こんな山中の寂しいところにも欧米系（フランス人？）の人が来ていることに驚かされました。修験道に、関心があるらしい。ヨーロッパには、中世以来の修道会の歴史があり、修験道と共通する部分があるのかもしれないと思ったりしました。

二日目の宿、東照温泉旅籠福田屋に宿泊しました。ここの温泉は良かったですね。露天風呂は広々としており、石壁の向こうからは女声が聞こえてきたりして、いささか心のときめきを感じたりしました。

第３日（2013.10/30）。今日もラジオ体操からスタートです。日光の語源ともされる二荒山神社をお参りし、次に、３代将軍家光の廟所である大猷院へ行きました。私は、日光を数回訪れたことはありますが、大猷院へ行ったのは今回が初めてでした。東照宮と異なり、多くの色彩を使わず、落ち着いた色調の黒と金をベースにした建物は、重厚さを感じさせました。家光は家康を尊敬する余り、生前、模倣を憚ったといい、廟についてもその意向は生かされており、そのことが、東照宮と大猷院との外観の相違に繋がったと考えられます。また、１７世紀初頭の東照宮は、桃山文化の影響下にあり、約２０年後に建てられた大猷院は、その影響は薄らいでいったとも考えられます。とにかく、私にとって大猷院を訪れたことは、今回の日光旅行の大きな収穫でした。その後、東照宮宝物館を見学し、次に天海が葬られている慈眼堂へ行きました。

昼食後、最後の訪問地カンマン淵へ行き、ここで解散となりました。

小沢さん、大変にお世話になりました。有意義な日光旅行でした。

平成 25 年度都歴研秋季史跡見学会

古代から現代まで、埼玉県中部の史跡を巡る

村　木　逸　子

平成 25 年 11 月 17 日（日）西武池袋線石神井公園駅集合。友の会の参加者は５名で心強い。

最初は吉見百穴で、ここでこの日に講師として同行された阿部泉先生と合流、阿部先生は現在は引退されているとのことだが授業では生徒の興味関心を呼び起こすべく授業で使える「モノ」をいろいろ開発された。この日はそれらを持参しバスの中で次々と披露され、会員にプレゼントしてくださった。

吉見百穴と日朝友好の木槿

吉見ひゃくあなと読む。ここは横穴古墳群の遺跡であるとともに太平洋戦争中の軍事工場跡でもある。中島飛行機会社が戦争末期に部品生産のためにここに工場を移転したものでかなり大きな洞穴であった。朝鮮からの労働者が多かったが、強制的に連れてこられたのではなく軍部の下にあった土建会社の募集に応じて来たというケースで、最後の帰国の際に日朝友好のために木槿(むくげ)が植えられたという。

阿部先生は「木槿は韓国の国の花」と教えてくれ「木槿の花が描かれた団扇」で木槿を紹介するといいと最初の「モノ」を披露。左写真

この地域には古くから須恵器や土師器が生産されていた形跡があり、大きな政治勢力が存在していた。多分それは渡来系の豪族であると推定されているという。このあたりの田んぼには黒曜石が転がっていると阿部先生は袋の中から黒曜石を取り出し、希望者に分けてくださった。

阿部先生のポケットからは様々な「教材」が出され、見せるだけでなくそれらを分けてくださった。私は「先生の栽培された綿花」や「羊の毛」「黒曜石」そして「トルコのイズミクタイルのチューリップ模様の写真」などをいただいた。

阿部先生

鉄剣の輝き・さきたま古墳公園

だいぶ以前に（鉄剣の金象嵌銘文が見つかった少しあと？）来た時とは様変わりしていて、大変広い設備の完備した公園になっていた。現在古墳の数は大小合わせて 13 だという。「さきたま史跡の博物館」で鉄剣とその銘文についての説明を受け、館内の展示品を見学、特に現代の名工たちが知恵を出し合って復元に取り組んだその鉄剣が展示されていて、見事な輝きと力強さをもった剣に見とれた。展示については副葬品の鏡などについても丁寧に説明されていてゆっくりみたかったが急がねばならず、外に出て稲荷山古墳に登って古墳公園全体を眺めた。発掘も継続中であるという。

小説や映画で有名になった「忍城」は車中見学、石田堤を歩いたが規模は小さく実感できなかった。

昼食時には都歴研会員の若い諸先生と雑談もで

きた。
午後は熊谷・深谷方面にバスを走らせた。

妻沼聖天の彫刻「さる」

入口に斉藤実盛の像があり、この寺が実盛の建造であることを示していた。本堂の聖天堂は国宝であるという。1735 年（享保 20 年）から 1760 年（宝暦 10 年）にかけて再建されたものである。さらに最近修復工事が終わり、鮮やかな色彩の建物や彫刻を見ることができた。日光東照宮より美しいという彫刻の中には「さる」がいて「様々なスタイルの猿を探しましょう」と書いてあり、集合時間を気にしながらそれを探し回って楽しんだ。

聖天とは歓喜聖天ともいわれ、秘仏なのだという。仏が象の頭をして抱擁する姿をしているということで、仏教には明らかにヒンドゥー教の要素が入っていると納得。

ホフマン輪窯の構造

午後のメインは深谷にある日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設だった。ここで造られた煉瓦により東京駅、日本銀行、赤坂離宮、東京大学などが造られたという。

明治 21 年（1888 年）の火入れから 120 年間操業していたそうだ。最盛期はいくつもあった製造施設「ホフマン輪窯」は現在一基のみ保存され国の重要文化財になっている。

ホフマン窯

「中に入るので皆さんかぶってください」とヘルメットが手渡され、緊張感が増す。

さるの彫刻

はじめは工場の構造がわからなかったが、こんな風に理解した。楕円形の大きなバウムクーヘンを想像する。それを１８等分します。１８分の１の部屋が焼成室でその部屋の中に煉瓦を積み（18000 個もの数になるという）上の孔から燃料の粉石炭を入れる。一部屋が終わると次の部屋に移るが、隣室の熱で前の部屋の煉瓦が徐々に冷やされていく、そのコマが終わると次のコマで煉瓦つくりをして・・・・そうして回っているうちに最初のコマの煉瓦は焼成され冷やされ・・・・燃料を上でぐるぐる順番に動かして昼夜休まず作動したそうだ。ホフマンの名称はドイツ人技師フリードリッヒ・ホフマンに由る。

製造された煉瓦は当初は川をつかって運搬されていたが輸送力が足りず、その後工場から深谷駅までの「運搬用鉄道」が造られた。現在は廃線になったが、線路や渠鉄橋が構内の端に少し残り、線路跡は遊歩道になっていた。「このあたりは畑だったのですが、その土をつかって煉瓦を製造したので地面が下がっています」との説明もあった。

最後は渋沢栄一記念館

「誠之堂」は渋沢の喜寿を記念して第一銀行行員たちの出資で建築された「西洋風の田舎屋」。設計は田辺淳吉。内部には中国・朝鮮・日本の意匠、中国風のステンドグラスは珍しい。誠之堂は国の重要文化財とのこと。隣に「清風亭」、最後が「渋沢栄一記念館」。建物の裏に大きな大きな彫刻が遥か遠くを見ているようなポーズで立っていた。ここ深谷の地に激動の時代に生まれ、討幕運動から幕僚に、明治になると訪欧経験をフルに生かして日本の産業界に数々の事業を打ち立てた渋沢栄一像である。

渋沢は故郷の風景に囲まれて立ち、何を夢見ていたのだろうか、印象深い姿だった。この記念館には多くの史料、記念品、渋沢家の人々の記録など展示物も多いがやはり時間不足だった。

埼玉県は東京に近いゆえに見落とされている史跡、文化財などがあることがよくわかった。私は埼玉都民なので特にそれを感じた。

上：西洋風の田舎屋
「誠之堂」
中：中国風のステンドグラス
右：渋沢栄一像

武蔵の豪族のご先祖は

菊池　征子

まったくの飛び入りで参加しました。在職中は国語で、教科書に藤森栄一の「鐸を追う少年」、「ああ、野麦峠」また古事記や万葉集があったので、このたびの古墳群や煉瓦工場跡は大変おもしろく見学しました。

稲荷山古墳から出た鉄剣に「ワカタケル」と読める刻字があったことは新聞で知っていましたが、あのように一か所にたくさんの古墳があるとは思ってもいませんでした。古代、利根川と荒川流域の豊かな土地に支配者層が生まれたことが一望してわかるのですね。

また、吉見百穴が渡来系の仕様であることから、朝鮮民族が武蔵の豪族のご先祖だと言ってもよいらしいと思いました。私は奈良の天皇陵（と言われるもの）を早く発掘できないかと思っています。

現役のみなさま、現場は教科書選定などなかなか大変と聞いております。どうか学問的真実が生徒にきちんと伝わりますように。　数々のお世話、どうもありがとうございました。

《全歴研神奈川大会報告》

大会テーマ　転換期の歴史教育とは？

池　口　康　夫

全国歴史教育研究協議会第54回研究大会は、神奈川県高等学校教育研究会社会科研究部会歴史分科会（以後「神奈川歴史部会」と略記）の主管により7月31日（水）～8月1日（木）両日、ワークピア横浜にて開催されました。大会テーマ「転換期の歴史教育とは？」のもと、例年通り１日目は午前中に総会、午後に４つの分科会が組まれ、２日目は午前中に第１分科会（シンポジウム）、午後に記念講演が行われました。８月２日（金）には史跡見学がありました。

今大会は大きな特色がありました。それは神奈川歴史部会が進めてきた大学との連携による運営や成果発表です。各分科会では３人の発表者のほか、共同研究者として大学教員がそれぞれ関与し、当日の発表においてもその立場から具体的な講評を行っていました。またシンポジウムでは、長年にわたって神奈川歴史部会の中心を担ってこられた児玉祥一先生が同志社大学准教授としてコーディネータを務められ、ここでも高大連携の歯車が大きく回ったような印象をうけました。また記念講演は、この連携事業のキーマンである大阪大学の桃木至朗教授が「高大連携でつくる新しい歴史教育」というテーマから専門のヴェトナム史を素材に歴史教材の見方や扱い方など刺激的な問題提起をなさいました。

個人的には第３分科会（日本史）の「シチズンシップ教育を意識した日本史教育」（神奈川県立湘南台高校の取組み）に感銘を受けました。地歴・公民の新たなカリキュラム開発や科目間連携の新たな可能性を提示するものとして広く共有してほしい実践だと思います。

懇親会も大学関係者・出版関係者も交えて大勢が参加し、大いに盛り上がりました。いずれにしても今後の歴史教育の実践と研究の可能性を実感させる素晴らしい大会でした。なお、大会参加者は約280名で、東京の教員は58名ですが例年より大学関係者が目立ちました。友の会では豊田岩男先生、木村清治先生と池口の３人でした。

次回は大阪です。

「博学連携フォーラム」に参加して

小　澤　拓　美

2014年3月23日に千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館において開催されたフォーラムに参加してきました。これは、博物館と学校との連携の形を考えるべく創立された「博学連携研究員制度」の発表会である。この制度は、2008年度に始まり、2年を1つの期とする。今回は、その第3期にあたる2012～2013年度の発表であった。

研究員は、小学校3、中学校4（うち東京都内1）、高校7（うち東京都内3）の計14人の先生たちであった。いずれの発表も、博物館資料またはその活動をどのように授業のなかに取り込んでいくか、についての独創的な取り組みだったと思う。当日の発表や、実践報告書から、特に印象に残った5つを選んで簡単にご紹介したい。

1　わたしが作った花押

ー小学生の古文書を利用した学習ー

船橋市立坪井小学校　鈴木正人先生

2013年の歴博展示「中世の古文書」の付属サ

ービスとして行われたワークシート「花押の書き方」を参考に、小学校３～4 年生を対象にした授業である。このワークシートは大変面白く、私は今でもしまってあります。

花押にも「頼朝」「尊氏」「信長」「秀吉」の４パターンがあるが、そのどのパターンにするか子どもたちに選択させて、自分のオリジナル花押を作成させる。初めはペンで、そして書道の時間には筆でも書かせたり、さまざまな提出物には名前の代わりに花押で出しても良いようにするなど、古文書と言う難しそうな世界を子どもたちの身近に引き付けるいい取り組みだと感心しました。

ちなみに、花押は現在も生きていて、閣議の各大臣の決裁は花押で行われるとのことです。

２　あなたは算数が好きですか

ーインド式から和算・江戸時代へー

千葉市立高浜第一小学校　三橋昌平先生

計算が嫌いという子どもたちが多いなかで、さまざまな算数の世界を教え、興味を持ってもらおうという取り組みである。5 年生の時、インド人に教室に来てもらってインド式計算法を教えてもらい、6 年生になって和算の世界を体験させる授業を創っていった、とのこと。

私達の世代では、小学校のときに鶴亀算で苦労して、中学校で方程式を習い「な～んだ」という体験をもっていると思います。ところが、例えば鶴亀算では、「鶴問わば、頭の数に二をかけて、惣足数の半分を引け」というような歌が残っているそうです。

この授業では、単に和算の歴史を学ぶだけでなく、子どもたちひとりひとりに「算額」を作らせるのです。発表のなかでいくつか紹介してくれましたが、例えば次のような小学生の作品があります。

「ここに兄弟三人あり。年を問えども言わず。一郎が申しけるは我年を三つに分けて二つ分を取れば二郎の年なり。その二郎の年を五つに分けて三つ分をとれば三郎の年なりという。おのおのの年の数を問う。」

こちらも映画「天地明察」の世界を思い起こしつつ、和算の世界を楽しんでしまいました。

３　生徒が発見し伝える歴博の魅力

ー中学生による見学用ワークシート作りの試みー

昭和学院中学校　　神山知徳先生

この学校は歴博に近く生徒を引率して来館することが容易である。その地の利を生かして、生徒が関心をもった展示物について、生徒たち自身でワークシートを作るという取り組みを行った。

例としてあげられている漆製品の場合、その役割は？　使い方は？　種類は？　どういう人が作ったのか？　などと、生徒は次々に疑問を深め、調べを進めて行った。こうした中で、漆製品が重要な海外輸出品であったこと、「Japan」と呼ばれることも学んでいく。普通の調べ学習だとここで終わるが、では、それを展示する側にたってどのように来館者に説明したらよいか、を考えながらワークシートを創っていく。作品はなかなか魅力的なものでした。

「教えることこそ最大の学び」とはよく言われるが、それを博物館の場で実践したことはすばらしいと思いました。

４　歴史の「展示」をプランニングしてみよう

都立総合工科高校　佐々木純先生

前項の神山先生と共通の面があるが、生徒たちに資料を与えて、では、それでどのような展示を創りあげられるか研究させる取り組みである。

使った資料は、歴博からの貸し出し教材の「戦争ポスター」である。「シンガポール陥落」「全村をあげて松根赤だすき」「少年産業戦士募集」などのポスターを教材に歴史的背景等を学んだあとに、資料展示のプランニングをグループごとにさせていく。その中で、説明パネルのレイアウト、音声・映像資料の活用などのアイデアが出てきた。

先生の発表をそのまま引用すると「資料から読

み解いた情報をどのように構成していくと言いたいことが相手に伝わるかを考えさせることが出来た」とのことである。

５　浅草の時空を旅する
ー江戸図屏風と錦絵を活用してー
都立浅草高校　海上尚美先生

海上先生は、2・3 期と連続して参加している。2 期の時に紹介してもらった、江戸図屏風の拡大版床置きパネルを広げ、その上に乗りながらまるで江戸の街を歩くような授業は感動ものでした。それを研究会で再現してくれた時、10 数人の教師たちが図上をあちこち歩きながら、まるで生徒のようにはしゃいでいました。

今回の実践は、浅草高、蔵前工業高、そして私立の岩倉高の３校合同の冬期講習授業で取り組んだものです。まずは、他校生と一緒ということもあり、江戸図屏風のパズルを利用して自分のピースに合う人を探す、というグルーピングから始めます。そのピース部分が江戸図屏風のどこに当たるかを見つけ出し、特に、地元浅草や上野を詳細に見ていきます。

講習の仕上げはフィールドワークで、浅草高校から出発して、待乳山聖天や浅草寺などをグループで見学して回ります。学校に戻ってから、フィールドワークを振り返るグループワークをおこなってまとめる、という知識・見学・交流を総合的に構成した素晴らしい取り組みだと思いました。

小、中、高校の先生とも忙しい中で、そして博物館側も国の文化予算削減など様々な圧力のある中で、こういう取り組みをされていることに、心から敬意を表したいと思います。

友の会だよりへ投稿のお願い

例年同様７月中には発行します。以下の要領で会員の皆様の玉稿をいただければ幸甚です。

内　容：研究要旨、資料紹介、書評、紀行文等何でも。
字　数：２０００字～３０００字
著作を刊行された場合には書籍そのもの、または要旨をお送り下さい。紙上でご紹介します。
送付先：〒191－0033 日野市百草９７１－１５８増田方
東京都歴史教育研究会友の会事務局

都歴研講演要旨

比較史の復活へ

西洋中心主義的一国史学と
グローバル史学の双方を超えて

講師　**小田中直樹**氏（東北大学教授）

2013 年 12 月 14 日（土）、午後２時から５時にかけて、都歴研講演会が都立石神井高校で行なわれた。講師は、東北大学教授・小田中直樹氏、テーマは「比較史の復活へ　西洋中心主義的一国史学とグローバル史学の双方を超えて」であった。

１　はじめに

21 世紀初頭におけるグローバル史学の持つ意義とその可能性を探ることは、今後の歴史学や歴史教育の発展にとってたいへん重要である。

２　グローバル史学の史学史

グローバル史学は、世界全体という空間を分析対象とし、西洋中心主義的一国史学やそれを批判して誕生したポスト・コロニアル歴史学と比較することで、その意義が明らかになる。

①　西洋中心主義的一国史学

19 世紀のドイツ諸邦において、実証主義的歴史学という名の下に明確な形を取った。その創始者レオポルド・ランケが確立したもので、20 世紀後半に至るまでの日本をはじめ世界各地の歴史学の主流はこの一国史学である。歴史学者おのおのが帰属する国家に貢献することが目的で、その論理的帰結たる国家や国民を分析単位・アクターとするような方法が取られた。

②　ポスト・コロニアル歴史学

第二次世界大戦後、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ各地の独立と脱植民地化の流れの中で、1970 年代に入ると、世界システム論、新従属論、あるいはオリエンタリズムといった思想・理論が現われる。これがポスト・コロニアル歴史学で、

南の側からの歴史の読み直しを主張した。

③　グローバル史学

各種のネットワークを重視し、空間的な境界を設けることを拒む考え方に立っている。これは、分類することそれ自体を放棄しなかったポスト・コロニアル歴史学の反省の上に立っている。分類することへの欲望を放棄することによって、序列化することへの欲望も否定しようとする試みである。

3　グローバル史学のポテンシャル

グローバル史学には、西洋中心主義的一国史学がはらんでいる２つの特徴（そのうちの一つはポスト・コロニアル歴史学が共有している）がある。

①　一国史観・国家アクター史観からの脱却の試み

グローバル史学は、一国史観や国家アクター史観を相対化し、そこから脱却することを試みている点で、歴史学に重要な問題提起をしている。

②　西洋中心主義・非西洋中心主義からの脱却の試み

グローバル史学は、西洋中心主義に対する批判を、ポスト・コロニアル歴史学と共有し、それだけでなく非西洋中心主義に止まりがちな点をも超克しようとしており、歴史学における重要な意義を見い出すことができる。

4　グローバル史学の陥穽

グローバル史学に陥りやすい問題点もある。

①　方法論的総対主義（ホーリズム）の誘惑

グローバル史学は、実は理論・方法論の次元では、方法論的総対主義に陥っている。世界システムの特徴を明らかにする場合、世界システムが出現する前の世界との比較が必要になってくる。この場合、空間から時間に変更する形で、分析の方法としての比較という営為は放棄されておらず、分類することへの欲望を伏在させることによって成り立っている。

②　歴史把握における対立軸のシフト：「南北」から「東西」へ

興味深いことに、「北」の内部において「東」と「西」に分類しており、これは「東」と「西」からなる「北」と、表立って言及されることのない「南」を分類していることになる。分類することへの欲望は、グローバル史学にも伏在している。

5　グローバル史学からもう一度「比較史」へ

分類することは、歴史学にとって、功罪合わせ持つ微妙な営為である。問題は、いかにすれば序列化なき分類・比較が可能であるかである。アダム・スミスの言う共感、すなわち他者の立場に身を置いて想像する能力の育成・強化を重視することが重要である。現時点では、共感・比較・一国史学という道具をうまく操っていくしかない。

（文責・多田統一）

都歴研講演要旨

中央アジアから見た世界史

講師　小松久男　氏

（東京外大特任教授・東大名誉教授）

６月２１日都歴研の総会に合わせて開かれた講演会は、東京外語大特任教授の小松久男氏による中央アジア史を概観したお話であった。以下要旨。

＊＊

中央アジアを知ることによって、世界史全体が見えてくる。そのことを１０のトピックで扱いたい。

1　ロシアの最古の書「イーゴリ軍記」に出てくる白い真珠を副葬する話は、遊牧民スキタイの風習からの由来が考えられる。風習は、民族・地域を超えて伝えられるものである。匈奴の冒頓単于のボクトツとは、トルコ語でバートル、モンゴル語ではバガトルと記され、英雄・勇士を意味するようになる。現在のウズベク語・ロシア語でも、

ウランバートルなど地名・人名に使われている。言葉の中に古い要素が継承されている。

2　中央アジアには、最果てのアレキサンドリアの町がある。イスラム化されたあとも、アレキサンドロスは英雄イスカンダルとされた。ウズベキスタン南部で出土した壁画で、額に二本の角のイスカンダルが描かれている。「イスカンダル」は、中央アジアで今でもよく男子の名に使われている。アレクサンドロスののち、ギリシャ人が入植し街を造る。アフガンの北部で発見された遺跡は、高台にアクロポリスの丘・城塞、麓に宮殿があり、円形劇場からは河が眺められるギリシャ風の設計である。

3　オアシス世界の定住民、ソグド人の文化の解明が進んでいる。サマルカンドの遺跡から出土した衣装の造形が素晴らしい。ソグドは、やがてユーラシア全部に及ぶ通商などに活躍した。安禄山は、父がソグド人、母は突厥人。禄山（ロクシャン）とは「明るい」「光」というソグド語。中国北部に定着したソグド人のお墓の発掘では、天幕や、髪の黒いソグド人と帽子の突厥人の通商、外交が描かれている。

4　中央アジアの南部は、８世紀以降イスラム圏に組み込まれていく。イスラム文明は、アラブだけが生み出したわけではない。中央アジアが貢献している。コーランは抽象的なことばでつかみにくいが、ハディース（ムハンマドの言行録）を、ブハラのブハーリーが調査した。口伝継承のルートと、本文調査を行った。うそつきの血統による伝承はカットしたり、60 万程のハディースから 2672 条を選び出した。現在でも最も信頼できるハディースである。ホラズムの数学者フワーリズミーの名は、現代数学の「アルゴリズム」という用語として伝えられている。

5　現在のキルギス紙幣には、イスラムに改宗したトルコ王朝としてのカラハン朝の建造物が描かれている。ブハラ・サマルカンドの途中には、カラハン時代の見事なキャラバンサライ（隊商宿）が残る。クラドゥク・ビリクが書いた、アラビア文字で書かれたトルコ語の著作である道徳本（詩形式）には「仏教徒に対して攻撃せよ、ムスリムには手を出してはならない」とある。カシュガル出身のカシュガリーが 11 世紀に作った辞書の中に収められた世界地図（**写真**）は、中央アジアを中心においた唯一の世界地図と考えられる。地の果ての海や、ヒマラヤ山脈、そして東に日本と思われる島が描かれている。

中央アジア中心の世界地図

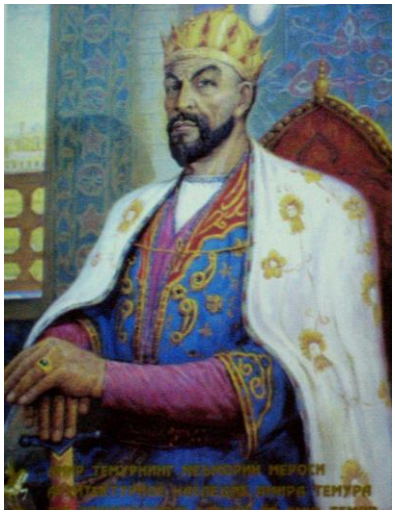
6　タタールのくびきと言われてきたが、近頃の研究では、モンゴルによってロシアは広い社会に開かれたのではないか、と見るようになった。ロシア語のなかには、トルコ系やモンゴル系の語が入っている。ロシアのある貴族は、タタール出身を誇りにしていた。イワン四世に従ったときに、右目に敵の矢を受けても戦った。貴族に取り立てられたのち作った紋章に、タタール系の短弓やターバンのデザインを入れたようにタタール起源を誇っている。最盛期のロシアのイスラムは、10 数%。現在でも、英仏とロシアではイスラムへの視点が違う。

7　ティムール帝国では、首都サマルカンドで副都ヘラート、つまり中央アジアとアフガニスタンは一体だった。ヘラートにおけるティムール時代の遺跡は、多くが内戦で破壊されたしまった。ティムールの最後の君主、バーブルの自叙伝は、今年東洋文庫から出版される。青年時代も赤裸々に書いている。バーブルは、敗戦ののち北インドに落ちのびてムガール朝を開く。そこで、ウズベキスタンでは、バーブル朝と呼ぶ。

8　ロシアの中央アジア征服は、クリミア戦争敗戦ののち、新しい勝利のために軍人が独断専行でやった。これに成功して、綿花栽培地を獲得した。では、中央アジアの人々にとってはどうだったか。イスラム軍が敗北して、市民は無防備に残された時、サマルカンドでは代表者が談判した。代表のイスラム法学者が、「異教徒であってもイスラムの暴君に勝る。予言者ムハンマドも市民をエチオピアに送って保護してもらったことがある。」として、異教徒への屈服を正当化した。公正な支配との引き換えに降伏という、したたかな対応をしたのである。

9　帝政ロシア時代に、クリミアタタール出身ガスプリンスキーは、教育改革を主張した。彼のユートピア小説「安寧の国のムスリム」の筋だては、「若者がアルハンブラ宮殿に、わいろを払って泊まる。夜に女性たちが地下に潜っていく。ついていくと桃源郷に行きつく。グラナダ陥落のあとのイスラム小国を、素晴らしい科学技術で秘かに築いている」というもの。イスラム教徒もやれば出来るとい物語で、この時代の彼らのおかれた状況が推し量れる。日露戦争の影響で、中央アジアのアブデュル・イブラハムは、明治42年来日、旅行記「ジャポンヤ」をイスタンブールで出版した。ここでは、志の高さ、礼節を重んじる日本人がイスラムに改宗すればもっとも理想的な教徒になると描かれる。イブラハムは、来日中に内田良平、頭山満、犬養毅などと「亜細亜義会」を結成した。

10　ソ連の時代には、イスラムへの抑圧が進んだ。イスラム学院から教授が蹴りだされ、共産少年団が笑って見ている図がある。しかし、第二次大戦でソ連の政策が変化する。ドイツの侵攻で、イスラムに対する抑圧をストップ、妥協が図られる。ドイツによるティムール墓の調査は、イスラムの反発を招いた。ティムールの絵は、この時の調査による骨に肉付けして書いたものである。カザフスタンのクスタナイの古いモスクは、タタール人が作ったがソ連時代は子ども劇場だった。今では多くの参詣者が集まりイスラムが再生しつつある。このように、中央アジアだけでも、世界史の多方面を見ることが出来る。



ティムールの肖像画

質問に関しての説明

・亜細亜義会について。設立ののち雑誌を発行して、アジア行き等の情報を出す。軍人の宇都宮太郎の日記（岩波書店から発刊）に、軍の秘密の資金を回していたことが書かれている。イブラハムは、1933年再び日本に招かれ、1944年東京で没し、墓は多摩墓地である。

・中央アジア系の名について。安禄山の安とはブハラという都市名である。

・世界史学習のゴールとは何か。日本ほど、まんべんなく世界史を学習させるところはない。今、戦後続いてきた教養主義が危機に立っている。日本国の枠だけで考えてなく、世界を知ろう、ということが重要。世界の5人に1人はイスラムだが、日本では、イスラムについてほとんど知られていない。世界史学習は、大きな流れをつかみ、世界に開かれる日本という点で考えさせることが大事だろう。

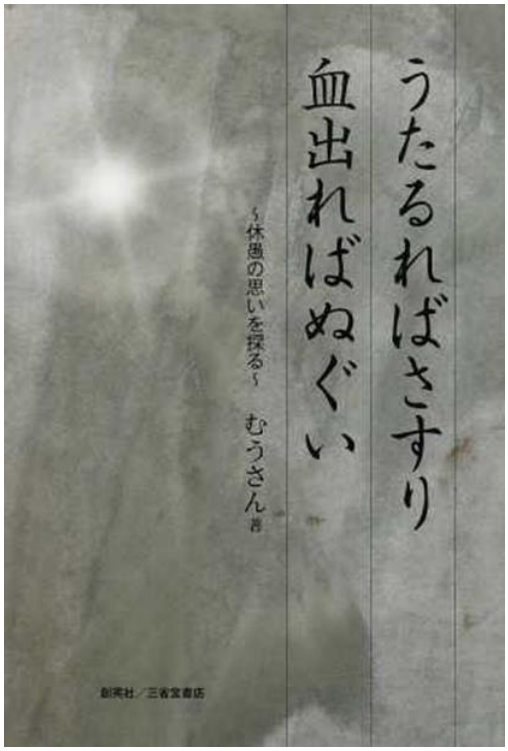
・最新著『激動の中のイスラーム』2014.5.30 山川出版社の紹介があった。　（文責　小澤拓美）

会員の著書紹介

むうさん著

『うたるればさすり 血出ればぬぐい ～休愚の思いを探る～』

むうさん（村上雅盈）



父を見送り退職後に母も見送った2008年、その秋のある日、あきる野市平沢の広済寺にある田中休愚（丘隅）回向墓を訪れました。実は福生高校に勤務していた青年教師の頃、生徒指導部の家庭訪問の帰りにたまたまこの寺のそばを通り、どんな由緒がある寺なのかと境内に入り、休愚の回向墓を見つけました。そこで都教委の説明も読んだはずですが、当時は生徒会の指導や野球部顧問に熱中していたせいか、すぐに忘れてしまいました。

この再訪の際は、休愚の著述した『民間省要』が近世のもっともすぐれた経世の書だという都教委の説明をしっかり読みました。しまった！それでは『民間省要』を読まないで展開していた私の授業は、生徒諸君に江戸時代の実態を伝えきれなかったのではないかという悔悟の念にとらわれました。あわてて『新訂　民間省要』を入手し、パッと開いた頁に、「しかるを往来公用の輩、・・・・時の威をかりて、杖・はなねじりにてむざと打擲（ちようちやく）・悪口する事こそ心得ね」とありました。この「心得ね」が、退職までの十年ほどの間に経験した教職環境の変化への私の「心得ね」と共鳴し合いました。

また休愚が50歳の頃から学問に目覚め、それから一所懸命に勉強を続け、60歳でこの『民間省要』を書きあげたことも知りました。この向学心の源泉を探ってみたくなりました。　よし、休愚さん、あなたの訴えを今の世に伝えられるようになるまで『民間省要』を読み込むぞと決意しました。最初は読んでもわからないことばかりでしたが、二回三回四回といろいろと調べながら読んでいくと、だんだん休愚の訴えたかったことが分かってきました。読書尚友といいますが、この著作は休愚と友達になった私に休愚の気合いが乗り移って書かせたような気もします。

著作の内容の概略は以下のとおりです。

今から約300年前、多摩の農家に生まれた休愚は、20歳のころまでは実家の負債を返済するために懸命に働き、22歳のころから東海道の川崎宿で宿場の仕事に従事するようになりました。

このとき一部の「公用」で宿場を利用する武士たちから上述のような暴力を受け「うたるればさすり、血出ればぬぐい」と我慢を続けます。この恨みが源泉のひとつとなって、50歳で宿役人を譲って荻生徂来（徂徠）の学塾蘐園（けんえん）に入門して勉強を始めます。そして60歳のとき、自らの体験を基礎に世の中の是非得失を告発した『民間省要』を書き上げました。この著作には武士のあり方への痛烈な批判があり、休愚はある伝手を使ってこれを将軍吉宗の「上覧」に供しました。

２０１３年創英社三省堂書店刊　定価税込み1,680円

『北からの世界史
－柔らかい黄金と北極海航路』

宮崎正勝　著

世界の歴史は、大航海時代を画期として、「陸の世界史」から「海の世界史」へと変わり、一時期は北の海域も北極海航路の開発競争の舞台となった。世界経済を動かした毛皮交易における陸のクロテン、ビーバーから海のラッコへの推移は、そうした歴史の転換と深く関わっている。北極海によっ て、大西洋と太平洋を結ぶ「北東航路」と「北西航路」の開発は、十八世紀後半のクックやバンクーバーらの航海・探検で不可能と結論づけられ、大森 林地帯のクロテン、ビーバー、北太平洋のラッコの乱獲による激減で北方世界の毛皮交易の時代は、十九世紀中頃に幕を閉じた。北方世界は、ヨーロッ パ、アジア、アメリカの国民国家に「広大な辺境」として組み込まれていく。

（カバー裏の要旨文より）原書房刊　２，４００円＋税

『インタビューする心』

多田統一

ＮＰＯが運営する東京雑学大学の講義資料（非売品）として監修した。私は月刊「文芸広場」（文芸広場社）の巻頭インタビューを担当したが、その中から 20 名を選び、対談と座談会の記事を含め 1 冊の本にまとめたものである。インタビューの相手は、都立高校関係では久保田武氏、久野猛氏、私立高校関係では鵜飼幸雄氏、歴史学者では樺山紘一氏等、対談の相手は当時文科省の寺脇研氏である。大学では、教授として雑誌インタビューの方法、心構えについて講義した。インタビューは、話し言葉を収録する点において、活字文化の重要な役割を担っている。教育・学術資料としても意味のあるものと思われる。

（リーブルテック 2014 年　東京雑学大学の講義用として限定１００部刊行）

会津若松への旅

中　村　道　雄

２０年近くの昔、今は亡き妻と共に訪れた若松城址と市街の思い出を綴ってみる。

会津若松は、２０１３年、ＮＨＫのテレビドラマ「八重の桜」で有名になったが、これについてはふれない。われわれは、まず磐越西線、会津若松駅で下車、駅前のモダンなハイカラバスで市中の野口英世青春記念館を訪れる。ここは医聖が、少年時代、火傷の治療を受け全治して医学を志した二階建の小屋で、無学な母親のかな書きの親書のコピーがある。文字は拙くとも子を思う切々たる感じに充ちている。ついで、松平家経営の薬草園、ここも小規模ながら名園である。

二度目に若松を訪れた時は、有名な飯盛山に登りはるかに鶴ヶ城を眺めて、かつて市街地の火を落城と誤認して自害した白虎隊の勇士達を偲んで下山した。山麓の料亭のそばが美味かったことをよく覚えている。近郊には名高い温泉がいくつかあるらしいが、時間の都合で敬遠した。

なお、３年前の３月１１日、東日本大震災で福島県は宮城・岩手県と共に地震・津波の被害を受けたが、とくに福島第一原発の事故により、いまだに後始末がつかない。願わくばこの機会に原発の終熄、できれば廃炉により、新たなエネルギーの開発を望みたいものである。

昭和３年１１月１７日に催された法要では、会津戦争以来なおわだかまっていたらしい東西の和解が改めて確認された。尚、松平容保の孫娘勢津子が秩父宮雍仁親王と結婚したことも付記する。

主要参考書

①２０１３年ＮＨＫ大河ドラマ特別展『八重の桜』主な執筆者は小枝弘和（同志社大同志社社史資料センター調査員、齋藤愼一（江戸博主任学芸員）

②秩父宮勢津子『銀のボンボニエール』

③『同志社の母　新島八重』

幻の大島憲法を発掘

行政分離と大島暫定憲法について

樋　口　秀　司

敗戦直後の昭和２１年、伊豆大島はＧＨＱによって日本から分離され、大島の人たちは日本からの独立を覚悟して憲法草案を起草していた、という歴史的事実がテレビニュースなどで取り上げられた。都歴研友の会会員の樋口秀司さんは、大島町史編纂の中でこの史実発掘に関わり、またテレビ取材に資料提供してきた。そこで、憲法の話題が厳しくなってきている昨今、この歴史について詳しく解説していただいた。

「大島大誓言」の発見

それは、大島町立中学校の教頭３年目の時、平成８年の暮れだったと思う。大島町史編纂委員のメンバーが、大島高校で国語を教わった恩師の藤井伸先生（故人）のお宅に集まった。元大島高校社会科の角田實先生（故人）、小学校の教員だった時得孝良先生に私の４人。そこには朝日新聞社会部の記者も同席した。この時、黄色っぽくなった更紙にガリ版刷りされた「大島暫定憲法」（正しくは「大島大誓言」という）の本物を見ることができた。それは大島町文化財専門委員の藤井先生が、未整理だった収蔵庫の茶箱の中から、制定過程を示す資料と共に発見したものである。

朝日新聞は、平成９年（１９９７）１月７日朝刊の一面トップ記事で大きく報じた。この記事によって、伊豆諸島が終戦後、一時期日本国から行政分離され、大島では「大島憲法」制定に向けた動きがあったことを一般の人たちは知ることになった。また、翌２月には、大島町役場の「広報おおしま」に、当時本村青年団長として会議に数回出席したことのある元大島町長鈴木三郎氏へのインタビュー記事が載り、大島島民の多くが知ることになった。それまでは、大島の基本的文献である立木（いつき）猛治著『伊豆大島志考』（昭和３６年９月１日初版発行）の「終戦直後の島状」の中で、行政分離と大島暫定憲法について２ページ程紹介されているに過ぎなかった。その後は、昭和４７年（１９７２）１月発行の『國學院法學』（第９巻第３号）小暮英夫教授の論文「伊豆諸島における行政分離問題」、昭和５４年（１９７９）８月２０日の読売新聞の記事「伊豆七島“外国”だった２か月の苦悩」などに紹介されているだけで、一般にはあまり知られていない事柄であった。

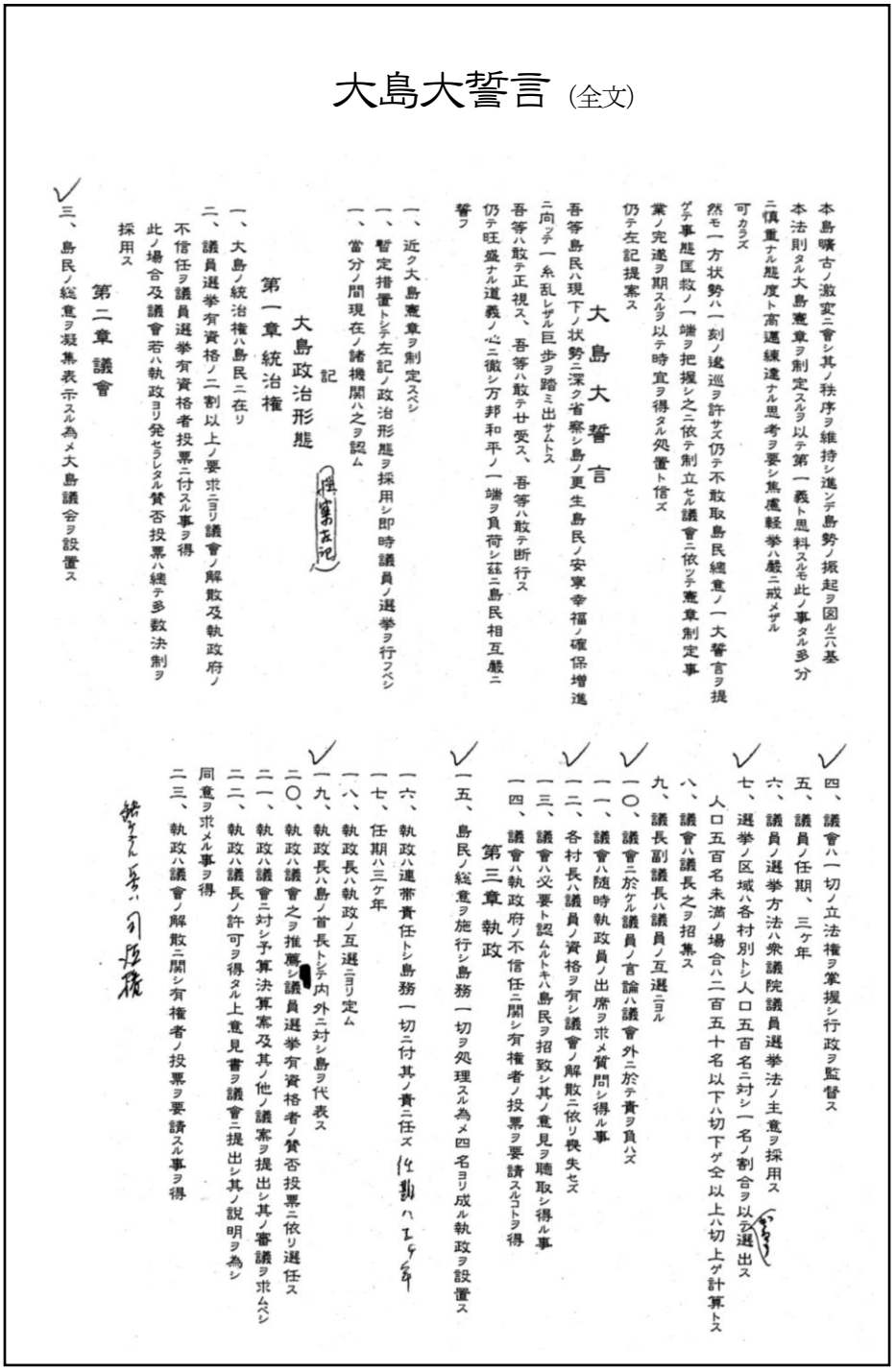
左上：柳瀬善之助村長　右：雨宮政次郎氏
左下：高木久太郎氏

万邦和平と島民主権

それでは、行政分離と大島暫定憲法の制定について見てみよう。

日 本国からの行政分離は、ポツダム宣言の第８条を受けて、昭和２１年（１９４６）１月２９日にGHQ覚書が出され、その中に、日本領域の範囲外の諸島に「伊豆南方」とあることが、伊豆諸島にとって大きな問題となった。伊豆大島では、「独立やむなし」と考え、「大島憲法」の実現に向けた動きが始まった。名古屋学院大学の榎本幸広氏やフリーライターの岡村青氏の論文によると、「島の新聞」を大正１３年に発刊し始めたジャーナリストで当時の元村（現元町）村長柳瀬善之助氏、昭和３年に三原山に御神火茶屋を創業し、投身自殺者の防止に尽力した無教会派キリスト教徒の高木久太郎氏、高木氏に目をかけられていた大工で戦前に反戦ビラをまいて特高に検挙されたこともある共産党員で元青年団長だった雨宮政次郎氏の３人が中心となって進められてきたようである。

改めて発見された 20 ページ程の史料を見ると、元村の有力者や他の５か村の村長らは、何度も会合をもち、正式な「伊豆大島憲法」作成までの暫定的な政治形態を規定した「暫定憲法」を３月上旬に出している。その内容は、①前文、②統治権、③議会、④執政の３章２３条からなっている。特に前文では、「万邦和平の一端を負荷し‥‥」で始まる平和主義を



大島大誓言（全文）

本島曩古ノ激変ニ會シ其ノ秩序ヲ維持シ進ンデ島勢ノ振起ヲ図ルハ基本法則タル大島憲章ヲ制定スルヲ以テ第一義ト思料スルモ此ノ事タル多分ニ慎重ナル態度ト高邁練達ナル思考ヲ要シ焦慮軽挙ハ厳ニ戒メザル可カラズ

然モ一方状勢ハ一刻ノ逡巡ヲ許サズ仍テ不敢取島民総意ノ一大誓言ヲ提ゲテ事態匡救ノ一端ヲ把握シ之ニ依テ制立セル議會ニ依ツテ憲章制定事業ノ完遂ヲ期スルヲ以テ時宜ヲ得タル処置ト信ズ

仍テ左記提案ス

大島大誓言

吾等島民ハ現下ノ状勢ニ深ク省察シ島ノ更生島民ノ安寧幸福ノ確保増進ニ向ツテ一糸乱レザル巨歩ヲ踏ミ出サムトス

吾等ハ敢テ正視ス、吾等ハ敢テ甘受ス、吾等ハ敢テ断行ス

仍テ旺盛ナル道義ノ心ニ徹シ万邦和平ノ一端ヲ負荷シ茲ニ島民相互厳ニ誓フ

一、近ク大島憲章ヲ制定スベシ

一、暫定措置トシテ左記ノ政治形態ヲ採用シ即時議員ノ選挙ヲ行フベシ

一、當分ノ間現在ノ諸機関ハ之ヲ認ム

記

大島政治形態

第一章 統治権

一、大島ノ統治権ハ島民ニ在リ

二、議員選挙有資格ノ二割以上ノ要求ニヨリ議會ノ解散及執政府ノ不信任ヲ議員選挙有資格者投票ニ付スル事ヲ得

此ノ場合及議會若ハ執政ヨリ発セラレタル賛否投票ハ總テ多数決制ヲ採用ス

第二章 議會

三、島民ノ総意ヲ凝集表示スル為メ大島議會ヲ設置ス

四、議會ハ一切ノ立法権ヲ掌握シ行政ヲ監督ス

五、議員ノ任期、三ケ年

六、議員ノ選挙方法ハ衆議院議員選挙法ノ主意ヲ採用ス

七、選挙ノ区域ハ各村別トシ人口五百名ニ対シ一名ノ割合ヲ以テ選出ス

人口五百名未満ノ場合ハ二百五十名以下ハ切下ゲ全以上ハ切上ゲ計算トス

八、議會ハ議長之ヲ招集ス

九、議長副議長ハ議員ノ互選ニヨル

一〇、議會ニ於ケル議員ノ言論ハ議會外ニ於テ責ヲ負ハズ

一一、議會ハ随時執政員ノ出席ヲ求メ質問シ得ル事

一二、各村長ハ議員ノ資格ヲ有シ議會ノ解散ニ依リ喪失セズ

一三、議會ハ必要ト認ムルトキハ島民ヲ招致シ其ノ意見ヲ聴取シ得ル事

一四、議會ハ執政府ノ不信任ニ関シ有権者ノ投票ヲ要請スルコトヲ得

第三章 執政

一五、島民ノ総意ヲ施行シ島務一切ヲ処理スル為メ四名ヨリ成ル執政ヲ設置ス

一六、執政ハ連帯責任トシ島務一切ニ付其ノ責ニ任ズ

一七、任期ハ三ケ年

一八、執政長ハ執政ノ互選ニヨリ定ム

一九、執政長ハ島ノ首長トシテ内外ニ対シ島ヲ代表ス

二〇、執政ハ議會之ヲ推薦シ議員選挙有資格者ノ賛否投票ニ依リ選任ス

二一、執政ハ議會ニ対シ予算決算案及其ノ他ノ議案ヲ提出シ其ノ審議ヲ求ムベシ

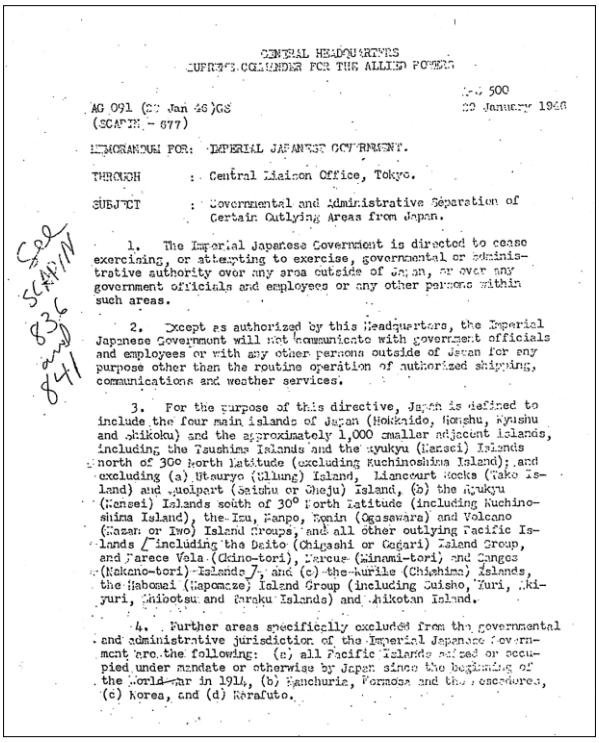
二二、執政ハ議長ノ許可ヲ得タル上意見書ヲ議會ニ提出シ其ノ説明ヲ為シ同意ヲ求メル事ヲ得

二三、執政ハ議會ノ解散ニ関シ有権者ノ投票ヲ要請スル事ヲ得

掲げ、第１章で「統治権は島民に在り」と島民主権を明記している。また、リコール規定など島民が権力を監視する直接民主主義的な規定が多いのが特色となっている。

法律の専門家もいない島民だけで、原案を基に暫定憲法を１か月程で作っていることは驚異に値する。私は個人的には、現行日本国憲法の前文にあたる二度と戦争の惨禍を繰り返さないという平和主義を示した「大島大誓言」を憲法発布前に作っていたことを島民の一人として誇りに思っている。

ところが、国や東京都、財界人などの個人的な働きかけもあって、１９４６年３月２２日、ＧＨＱの指令により、伊豆諸島の行政分離は５３日間で終わり、日本国に復帰することになった。「大島暫定憲法」は日の目を見ることはなく、「伊豆大島共和国」の建設は、「幻」に終わり、現在まで忘れ去られていたのである。



GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

APO 500
AG 091 (22 Jan 46)GS 29 January 1946
(SCAPIN - 677)

MEMORANDUM FOR: IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT.

THROUGH : Central Liaison Office, Tokyo.

SUBJECT : Governmental and Administrative Separation of Certain Outlying Areas from Japan.

See SCAPIN 836 and 841

1. The Imperial Japanese Government is directed to cease exercising, or attempting to exercise, governmental or administrative authority over any area outside of Japan, or over any government officials and employees or any other persons within such areas.

2. Except as authorized by this Headquarters, the Imperial Japanese Government will not communicate with government officials and employees or with any other persons outside of Japan for any purpose other than the routine operation of authorized shipping, communications and weather services.

3. For the purpose of this directive, Japan is defined to include the four main islands of Japan (Hokkaido, Honshu, Kyushu and Shikoku) and the approximately 1,000 smaller adjacent islands, including the Tsushima Islands and the Ryukyu (Nansei) Islands north of 30° North Latitude (excluding Kuchinoshima Island); and excluding (a) Utsuryo (Ulung) Island, Liancourt Rocks (Take Island) and Quelpart (Saishu or Cheju) Island, (b) the Ryukyu (Nansei) Islands south of 30° North Latitude (including Kuchinoshima Island), the Izu, Nanpo, Bonin (Ogasawara) and Volcano (Kazan or Iwo) Island Groups, and all other outlying Pacific Islands (including the Daito (Chigashi or Ogari) Island Group, and Parece Vela (Okino-tori), Marcus (Minami-tori) and Ganges (Nakano-tori) Islands), and (c) the Kurile (Chishima) Islands, the Habomai (Hapomaze) Island Group (including Suisho, Yuri, Akiyuri, Shibotsu and Taraku Islands) and Shikotan Island.

4. Further areas specifically excluded from the governmental and administrative jurisdiction of the Imperial Japanese Government are the following: (a) all Pacific Islands mandated or occupied under mandate or otherwise by Japan since the beginning of the World War in 1914, (b) Manchuria, Formosa and the Pescadores, (c) Korea, and (d) Karafuto.

行政分離のGHQ指令　1946.1.29

独立国建設への偉大な遺産

平成２５年８月１４日の東京新聞「終戦直後の伊豆大島」で紹介された「行政分離と大島暫定憲法」にヒントを得て、「青年劇場」創立５０周年記念として、中津留章仁作・演出の「みすてられた島」が近未来劇として平成２６年（２０１４）５月に上演された。憲法記念日に合わせたＴＢＳの報道特集、６月１６日（日）の深夜番組「報道の魂」、５月１０日の「みすてられた島」の開演に合わせたＮＨＫの朝７時のニュース、朝日新聞など、前もっての取材に関わり資料提供してきたので、私としても大島のことを扱っていただき嬉しいことであった。先人たちの「伊豆大島共和国」を創ろうとした偉大な精神と行動は、決して忘れてはならない、と思っている。

（平成 26. 7. 1）

都歴研「友の会」海外研修

スペインの旅

今回の旅はローマ帝国支配時代に始まり、ユダヤ教徒のディアスポラ、イスラム支配の時代、キリスト教徒の国土回復運動＜レコンキスタ＞の時代、スペインが世界帝国であった時代、そして近代・現代のスペインとイベリア半島を縦に遡る歴史の旅です。アルハンブラ宮殿の水の音が聞こえてきます。黄金の建築や多くの絵画が待っています。

期　日　出発 12 月 1 日（月）成田発
　　帰国 12 月 8 日（月）成田着
観光地　バルセロナ　グラナダ　セビリア
　　コルドバ　マドリッド　トレド
費　用　旅行代金 23 万円程度　他諸費用 7 万円（15 名参加として）
旅行社　株式会社「日本旅行」＊この旅行は本会単独で実施です。
事前研修会　11 月（期日・場所は後日連絡）　講師　元世界史教員
＜**申し込み方法**＞まず 9 月 15 日迄に下記へ連絡してください。
＜**連絡先**＞　担当　村木逸子
04-2942-9512　090-5306-8117　mrk-7627@nifty.com

第8回友の会総会報告

今年度の東京都歴史教育研究会友の会第８回総会は、６月２１日（土）１４時から１５時まで都立三鷹中等教育学校に会場をお借りして行われた。

鍵山充尚議長を選出し審議された議事は、①事業報告、②決算報告　監査報告　のあと、③会則改正案が提案され､第１５条･会計年度について、４月１日から３月３１日とすることを了承した。

④友の会の新たな事業として「友の会歴史教育研究助成制度」が**別掲**のとおり会長から提案され、議論を経て了承された。これにより、全歴研で東京代表として発表する教員に対して、研究助成金により援助することをとなった。

⑤２０１４年度世話人として、次の１１名が承認された。礒山　進、小澤拓美、木村清治、黒田比佐雄、鍵山充尚、重政文三郎、多田統一、豊田岩男、増田克彦、村木逸子、矢島恒之

⑥２０１４年度事業計画では、例年の事業のほか、自主事業として４回目の海外研修旅行（スペイン方面＝Ｐ２１参照）が提案され了承された。

⑦以上の事業計画に基づき、予算案が提案された。全会員からの会費徴収、会員拡大、研修旅行準備金の予算化、友の会ホームページ経費計上、会報印刷費の増額計上などについて意見交換があり、予算を決定した。

2013年度決算報告

項目		予算額	決算額	備考
収入の部	会費	122,000	104,000	会員49名×2000円
	寄付金　他	5,000	23,836	寄付金（4名）他
	前年度繰越金	241,314	241,314	
収入合計		368,314	369,150	
支出の部	都歴研援助金	50,000	50,000	
	通信輸送費	60,000	38,880	
	事務費	10,000	3,128	封筒その他
	会議費	20,000	11,000	ルノアール会場費
	予備費	228,514	0	
支出合計		368,514	103,008	

収入合計	－	支出合計	残高（繰越金）
369,150	－	103,008	266,142

都歴研友の会ホームページ

http://sky.geocities.jp/torekikentomonokai

友の会の諸連絡、国内･海外研修旅行の記録、
「友の会だより」バックナンバーもカラーで。

友の会の新規事業がスタート

友の会歴史教育研究助成制度

１　制定理由

２００７年の友の会発足以来、友の会は、東京都歴史教育研究会に対し年５０，０００円の経済的援助を行ってきた。しかしながら、東京都教育委員会の教育研究団体に対する補助金が２０１２年度より復活したことによって、友の会の都歴研に対する経済的援助の必要性は希薄となった。都歴研の了解を得、友の会としてはこれまでの経済的援助に代え、歴史担当教員の歴史教育実践並びに歴史教育研究の奨励にこれまで支出してきた年５０，０００円相当を用いたい。

２　対象者選定方法

毎年行われる全国歴史教育研究協議会大会において、東京都を代表し、分科会で自らの教育実践等を発表した者を対象とする。

３　奨励の内容と公表

発表１件につき、額面５，０００円の図書カードを贈呈し、その氏名等を「友の会だより」に掲載する。